

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム花の家 しらゆり棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム花の家 しらゆり棟		
所在地	〒023-0171 岩手県奥州市江刺田原字大日195-1		
自己評価作成日	令和2年11月3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和2年度グループホーム花の家 活動ビジョン 「ワンチームでみんな仲良く」</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地区の中心地にあり、周辺には農協や警察の駐在所、保育所などがあり、同じ敷地内には、法人本社や居宅介護支援事業所、デイサービスセンターが立地し、田原ケアセンターを構成している。隣接のデイサービスセンターの栄養士や看護師、理学療法士等による、食事指導や介助支援、機能訓練など、相互の機能を活かした協力・支援により、充実した介護サービスを利用者に提供している。職員は法人の経営理念の下、具体的な取り組み内容を明記したグループホームの「活動ビジョン」を定め、利用者の意向や家族の要望等を聴き取り、利用者職員が支えあいアットホームなグループホームを目指し、よりきめ細かな介護サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しく、みんな仲良く」を理念に掲げ、利用者様が、生き生きとした生活が送れるよう支援している。	毎年度、理念の下に、活動ビジョン「ワンチームでみんな仲良く(令和2年度)」(7つの決まりごと)を定め、職員間で共有し、実践に取り組んでいる。ケアプランの評価や見直し等の振り返りについても、理念を拠りどころにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為交流をしていない。	コロナ禍の以前は、運動会や文化祭など多くの地域行事に参画したり、隣接の施設とのクリスマス会などを行っていた。現在は、ホーム周辺の散策や外気浴などで気分転換を図っている。コロナ禍収束後の地域とのお付き合い、交流等について内部で意見を出し合っているところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地元区長、民生委員等の方々へホームで生活している利用者の状況や、支援の方法について意見交換の場を設けている。(今年度は新型コロナウイルスの為書面にて意見を求めている)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて意見交換のテーマを設け、ホームの生活の中で利用者の状況を伝えるとともに、意見交換を行っている。(今年度は新型コロナウイルスの為書面にて意見を求めている)	利用者・家族、消防団員の方も委員に依頼し、多方面からの意見が得られるようにしている。委員からは、自然災害への対応策などについて意見が出されている。現在はコロナ禍のため、書面開催となっているが、収束後には多くの意見をいただけるよう、議題等を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場に、健康福祉グループ長兼主幹に参加していただき、ホームの実情等について伝えるとともに、意見交換の場を設けている。(今年度は新型コロナウイルスの為書面にて意見を求めている)	運営推進会議の場を通して、指導・助言や行政情報の提供を得ている。利用者の要介護認定申請に際しては、随時役所に出向き直接担当者へ提出して意思の疎通を図っている。生活保護担当職員や介護相談員の訪問もある。災害情報は、その都度、連絡をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化に関する指針を定め、年4回の身体拘束廃止委員会と職員に対しての勉強会に参加できる職員を含め行う事で理解を深めている。夜間等安全の為施錠を行っている。	グループホームの指針を定めるとともに、委員会での検討内容を職員間で共有し、具体的に対応している。年1回の勉強会を開催しているほか、日々の暮らしの中で、言葉遣いなど気付いたことを注意喚起し合いながら、一人一人の状況に応じて、ゆとりをもって利用者に寄り添っている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関連する資料をホーム内に掲示し、理解を深めるよう努めている。また身体拘束廃止委員会の会議の内容を職員全員に通知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年初めまで、成年後見制度を利用している入居者が入居されており、制度に関する知識を有する職員いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様に対し不安や疑問点について十分に説明できるよう時間を確保している。改定に関しては改定理由を文書等で明示し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。また、HP上でもお問い合わせフォームにて意見を言っていただけのようにしている。	家族の来所や受診同行の際に、意見や要望を聴き取るよう努めているほか、毎月発行する「げんきだより」で利用者の生活状況をお知らせしながら、意見等を伺う工夫もしている。利用者からのお手伝いや買い物(清涼飲料水など)の要望は叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表を含めた職員全員の会議を年に数回開催し、互いに意見を出し合っている。	職員会議やケアカンファレンス、申し送りの際に、職員が意見等を出し合っている。希望による勤務シフトの変更のほか、電灯の交換やトイレの汚れ清掃など、職員の意見・提案が業務改善や環境整備に活かされている。例年実施の忘年会に代え、今年は職員に温泉利用券を配布した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間に関しては、職員に主婦層が多いことも考慮し、夜勤の出退勤時間に関しては考慮している。また、資格取得に関しても本人の意欲等を勘案し必要に応じた支援を行っている。給与についてはキャリアアップに応じて昇給できるようにしている。		

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対応の仕方など定期的に利用者介護にかかわる事についての勉強会を実施し技術向上できるように努めている。諸研修に関しても受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内にある別事業所との人事交流を通して、介護の質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの支援に生かせるようにケアプランを作り取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、家族から要望等を聴取し、それをホームでの介護支援に生かせるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の暫定ケアプランにて支援し、1か月程度で本人への最優先支援事項を職員で協議し、ケアプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ソーシャルディスタンスを考慮し、仲の良い利用者同士がいつでも会話できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	げんきだよりで日常の報告をしたり、時には家族と電話で連絡をとって家族の絆を大切にしている。面会に来られたご家族様に対して、入居中の状況を伝え、関係性を維持できるように支援している。現在はオンラインによる面会を推奨している。		

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度は入居者様のご家族・知人などの面会希望も柔軟に対応していたが、新型コロナ対策で今年度は面会制限している。	コロナ禍のため来所の制限をしており、知人、友人の来所はない。家族や親戚が相談室で面会し、理容は2か月に1回の訪問理髪となっている。職員は利用者の馴染みの場所や会いたい人等の話に耳を傾け、これからもその実現に繋げていきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソーシャルディスタンスに配慮し、気の合う利用者と隣り合わせに座るように配慮している。隣の棟へ行き来出来る雰囲気づくりをし、利用者同士が交流を深めるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合、必要に応じて関係機関に情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様毎の担当を決め、その担当が入居者の願望を聴いている。また、ご家族様から生活歴を伺い、本人の思いや願いを把握するよう努めている。	入居前の生活歴やその後の暮らしの状況に応じ、利用者のお手伝い(食器洗い、モップがけなど)やリビングでの居場所など、利用者の希望や意向を大切にしながら対応している。お話しが嫌いな方、苦手な方の思いや意向は、表情や言動から察するようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの経過や自宅での生活の様子を聞いたり、日常生活から見える本人の状況を踏まえ現状を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録や日課表の中に個人の行動、特徴を記載するようにし、一人一人の過ごし方を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を踏まえ、ケアマネジャー、計画作成担当者、介護職員で話し合い、ケアプランを作成している。	居室担当者が、それぞれに日々記載した記録シートを基に、毎月モニタリングやケアカンファレンスを実施している。ケアプランは、家族に内容を説明をしながら、意向の確認・了承を得て、通常は3か月毎に見直しを行っている。遠方の家族には、郵送で了承を得ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を提供するにあたり、気づいた事を介護実施記録の特記事項に記入したり、生活行動記録に記入し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は新型コロナの影響で家族との面会も制限しているが、施設内の生活では入居者のニーズを聞き対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナの影響で面会を制限している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たり、ご家族様から希望するかかりつけ医を確認している。かかりつけ医に対しては、受診時、情報提供書を送付し、ホームでの状態をわかりやすくお伝えできるように努めている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっており、事業所の都合による変更は無い。協力医をかかりつけ医としている利用者には職員が同行し、その他のかかりつけ医受診は家族の同行としている。利用者の情報提供書は、事前に医療機関に送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が医療機関に入院した際、介護サマリーを医療機関に提示している。病院を訪問し、状態を確認したうえで関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心がけている。		

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談・契約締結時から、家族に対し、入居者様の最終的な生活の場、どのように生活したいのかについて時間をかけて聞くようになっている。	事業所での看取り経験はこれまで無い。実際に看取りを必要とする状態になった際には、医療機関への入院や特別養護老人ホームへの入所を含め、家族やかかりつけ医等と納得がいくまで話し合い、後悔することがないように努めている。職員に対する研修は、検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルをホーム内の職員が目にしやすい場所に貼っている。応急手当や初期対応について、マニュアルを作成し共通の認識のもとで訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団員や近隣者も含めて実施したことにより、協力体制が徐々に強まってきた。夜間想定訓練も実施した。年2回の避難訓練実施。運営推進委員の消防団や近隣からの参加をいただき実施している。	避難訓練は、毎年、春と秋の2回実施(火災・夜間想定)している。訓練には、運営推進会議委員である消防団員や近隣地域の方々も協力者として参加している。今後は、薄暮時の夜間想定訓練も考慮したいとしている。職員は、AED講習や防火講習を重ねて受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様にとって心地いい声掛けができるように対応している。	利用者への声かけは、名前できちんと呼ぶこととしている。居室やリビングでの寛ぎなど、プライベートの時間を大切にしている。家庭的な雰囲気のもとで、お手伝い、やってみたいことを叶えるように支援している。失禁には細心の注意を払い、心情を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	職員とのコミュニケーションの中で、本人の希望がある場合、本人の意思を優先させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表を作成して支援しているが、他に本人の希望があった場合は、柔軟に対応している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は自発的に行う者、職員の声かけにて行う者とさまざまだが、理容は2カ月に1回利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の手指の消毒を十分に行い、トレー拭き、おしぼり作り等の手伝いをしている。	デイサービス施設の栄養士が作成した献立によって、スーパーから配送される食材と菜園の野菜などで職員が交代で調理し、利用者と職員と一緒に食事を摂っている。利用者は、皮むきなどの下拵えや下膳、食器拭き、テーブル拭きなど、得意なことや好きなことを手伝っている。	コロナ禍以前に実施していた、利用者の希望による「お楽しみ食事(ラーメン、サシミ、お好み焼きなど)」について、コロナ禍収束後に再開されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。入居者様夫々の食事・水分の摂取状況を記録している。口腔体操を実施し、誤嚥等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的にブラッシング・うがい・義歯清掃を行っている利用者が何人かいるが、自力では厳しい利用者には職員が声かけや介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のために、利用者ごとに排泄チェック表をつけ、出来るだけ自分で出来る場所は見守りをして自立支援を行っている。	自立の方が4名で、その他の方はリハビリパンツやパットなど、何かしらの介護用品を使用している。昼夜とも職員の適時・適切な声掛けにより、利用者はトイレでの排泄に努めている。失敗した場合でも、職員が優しく声掛けし、利用者が気落ちしないよう細心の注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給の働きかけをしているが、便秘がひどい時はかかりつけ医に相談し下剤調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴に対するニーズや心身状況に合わせて入浴サービスを提供している。	毎日の入浴も可能であるが、基本2日に1回の入浴としている。入浴を嫌がる方には、清拭や時間、日程の変更で対応している。早湯や30分の長湯など利用者の意向に沿っている。ゆず湯、入浴剤使用のほか、週に数回、温泉水を活用している。入浴時は、昔話などで楽しんでいる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んでいただいています。居室に限らず、ソファなどで休んでいただく場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し変更があった場合は服薬管理表に記載し、服薬後に変化が見られる場合はかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、後片付け、掃除等日々の役割を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合は外の散歩をするが、今年度は新型コロナ対策で外出は控えている。	天気の良い日は、周辺を散歩したり、よもぎ取り、花摘み、自販機の飲み物購入、更には、畑作業にも出ている。ドライブは、江刺藤原の郷の花見、紅葉狩りに出かけた。例年実施の夏祭りやアイスクリームの購入、家族との外食は取り止めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人での金銭所持はなく、ご家族から預かってホームが預かり金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者が家族に電話をかけたいと申し出があった場合は、職員が間に入り話ができる様努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソーシャルディスタンスに配慮し季節毎の行事を行っている。また食席やテーブルの配置も利用者の間隔を広くしている。	リビングには食事用テーブルやソファがゆったり置かれ、壁には利用者の塗り絵、ちぎり絵などの作品が飾られている。利用者はテレビを観たり、外を眺めたりしながら寛いでいる。コロナ禍対応として、運動不足解消の体操を施設内で工夫を凝らして行っている。施設の清掃は、利用者のモップがけの協力を得ている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の家 しらゆり棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごせる様配慮したり、食席に気の合う利用者同士に座っていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品、思い出の品等ご家族様に確認し、持ってきていただける様配慮している。	居室には、ベッドや洗面台、クローゼットが整備されており、室温は床暖房とエアコンで心地良く管理されている。利用者は、それぞれに使い慣れた鏡やテレビ、筆筒や衣類、仏壇などを持ち込んでいる。ベッド用の畳は、利用者が入れ替わる都度、畳替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように、トイレ、居室等に名前を書き、本人がすぐわかるように工夫している。日付け確認のために日にちや曜日がわかるようにホール内に表示し、レク時に一緒に声に出して確認している。		